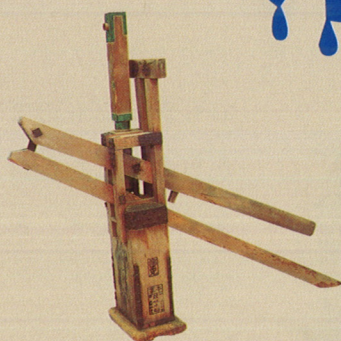
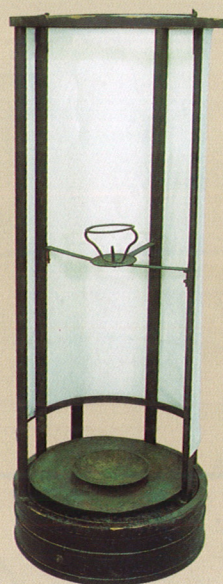


ちよつと昔の道具たち



と



二〇〇五年

二月一二日(水)～三月四日(金)

体験教室

「わらぞうりを作ろう」

二月一九日(土) 午後一時～四時

定員一五名 参加無料

電話で資料館へ申し込んでください

柏原市立歴史資料館

開館時間 九時三〇分～一六時

休館日 月・火曜日と祝日

入館料 無料

交通

JR大和路線高井田駅から徒歩五分

近鉄大阪線河内国分駅から徒歩一五分

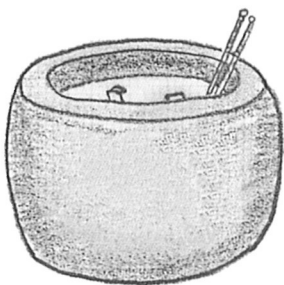
大阪府柏原市高井田一五九八一

電話 〇七二九一七六一三四三〇

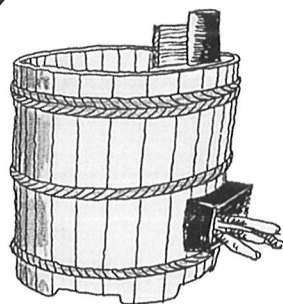
火と水、どちらもわたしたちの生活になくてはならないものです。火は料理をしたり、からだをあたためるのに必要です。水は生きるためだけでなく、せんたくやおふろにも使います。しかし、火は火事になると、すべてのものを焼いてしまいます。水も洪水となって、家や田畑をだめにしてしまいます。そして、たくさんの人の命までうばいます。このようにおそろしい火と水を、うまく生活に利用できるように、昔の人たちはいろいろなくふうをしてきました。それでは、昔の人たちが、どのように火と水を使っていたのか、いっしょに考えてみましょう。

火

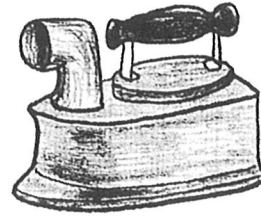
火はいろいろなことに使われます。すぐに思いうかぶのは、あたためるために使われることでしょうか。昔は、あたためるために火はなくてはならないものでした。ひばちやこたつなどには、炭が使われました。炭は暖房のためだけでなく、料理やアイロンにも使われました。また、あかりはいまではほとんど電気ですが、昔はろうそくやあぶらを使ったランプなどしかありませんでした。そのほかにも、たばこをすうときや、時計などにも火は使われました。しかし、うっかりすると火事になってしまう怖いものでもありました。



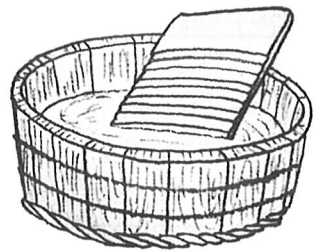
ひばち



てっぼう風呂
鉄砲風呂



すみび
炭火アイロン



たらいとせんたく板

火事になると、その火を消すのが水です。昔も、竜吐水やポンプなどを使って火を消していました。また、水は飲んだり料理に使ったり、生きていくためになくてはならないものです。人々は川や井戸で水をくんできて、その水を使っていました。水はそのほかにも、せんたくに使ったり、おふろに使ったりしましたが、いまのような水道がないころには、とても貴重なもので、みんな大切に使っていました。井戸から水をくむのは、こどもの仕事になっていたところが多いようです。みんなは重たい水をいっぱい運ぶことができますか？

水